

ホクコーエルサン[®]乳剤

■種類名：PAP乳剤

■有効成分：PAP ----- 50.0%

■化管法指定物質：フェントエート又はPAP [第1種] ----- 50.0%

 キシレン [第1種] ----- 19.0 《15~23》%

 エチルベンゼン[第1種] ----- 19.0 《15~23》%

 ベンゼン [第1種] ----- 0.28%

 トルエン [第1種] ----- 1.1%

■登録番号：第6831号

■毒性：医薬用外劇物

■登録初年：1965.04.13

■性状：赤黄色澄明可乳化油状液体

■有効年限：5年

■包装：500ml×20本

■危険物：第二石油類危険等級III、火気厳禁

【特長】

- 広範囲の害虫に効果がある有機リン系殺虫剤。
- 稲、麦、畑作物、野菜など適用作物も極めて広い。

【適用内容】（2024年11月末日現在）

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	PAPを含む 農薬の 総使用回数
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000~1500	60~150 %/10a	収穫7日 前まで	2回 以内	散布	2回以内
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800~1000					
	ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ イネヒメハモグリバエ	1500~ 2000					
	カメムシ類、フタオビコヤガ	1000					
	イネドロオイムシ	1000~2000					
	イネハモグリバエ	2000					
小麦	アブラムシ類、アワヨトウ ムギクロハモグリバエ、ムギキモグリバエ	1000			4回 以内	4回以内	
かんきつ	ヤノネカイガラムシ、アブラムシ類	1000~1500	200~700 %/10a	収穫14日 前まで	2回 以内	散布	2回以内
	ミカンサビダニ、ミカントゲコナジラミ ミカンコナジラミ、ハマキムシ類 ミカンハモグリガ、カメムシ類 カイガラムシ類(ヤノネカイガラムシを除く) アザミウマ類、ケシキスイ類 ゴマダラカミキリ成虫、ミカンバエ成虫	1000					
くり	モモノゴマダラノメイガ、クワイガアブラムシ カツラマルカイガラムシ若齢幼虫、クスサン				4回 以内		4回以内
キャベツ カリフラワー	アオムシ、アブラムシ類 ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ	1000~ 2000			2回 以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ、アザミウマ類 カブラハバチ幼虫、ハスモンヨトウ コナガ	1000					
ブロッコリー	アオムシ、アブラムシ類 ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ	1000~ 2000		収穫30日 前まで		散布	2回以内
	ヨトウムシ、アザミウマ類 カブラハバチ幼虫、ハスモンヨトウ コナガ	1000					
はくさい	アオムシ、アブラムシ類 ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ	1000~ 2000	100~300 %/10a	収穫21日 前まで	3回 以内	散布	3回以内
	ヨトウムシ、アザミウマ類 カブラハバチ幼虫、ハスモンヨトウ コナガ	1000					
だいこん	アオムシ、アブラムシ類 ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ	1000~ 2000			2回 以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ、アザミウマ類 カブラハバチ幼虫、ハスモンヨトウ コナガ	1000					
かぶ	アオムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ、ダイコンハムシ、オニジユウホシテントウ	1000~ 2000		収穫30日 前まで	2回 以内	散布	2回以内
	ヨトウムシ、アザミウマ類 カブラハバチ幼虫、ハスモンヨトウ コナガ	1000					

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	PAPを含む 農薬の 総使用回数	
ほうれんそう	アブラムシ類、ホウレンソウケナガコナダニ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1000~2000 1000	100~300 ㍈/10a	収穫21日 前まで	1回	散布	1回	
レタス	アブラムシ類	1000~ 2000			2回 以内		2回以内	
	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1000		収穫3日 前まで	3回 以内		3回以内	
すいか しろり かぼちゃ	アブラムシ類	1000~ 2000			4回 以内		4回以内	
まくわうり メロン	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	3回 以内		3回以内	
	アザミウマ類	1000			1回		1回	
ごぼう	アブラムシ類	1000~ 2000		収穫7日 前まで	2回 以内		2回以内	
にんじん	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1000		収穫90日 前まで	収穫21日 前まで		4回 以内	4回以内
	アブラムシ類	1000~2000		2回 以内			2回以内	
ねぎ	アザミウマ類	1000		収穫7日 前まで	収穫21日 前まで		4回 以内	4回以内
	アブラムシ類	1000~2000		2回 以内			2回以内	
たまねぎ	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	収穫7日 前まで		2回 以内	2回以内
	アザミウマ類	1000					4回 以内	4回以内
かんしょ	ヒルガオハモグリガ ハスモンヨトウ、ナカジロシタバ			1000~2000 1000	収穫14日 前まで		収穫7日 前まで	2回 以内
	アブラムシ類、ニジュウヤホシテントウ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1回			1回			
ばれいしょ	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	収穫21日 前まで		2回 以内	2回以内
	アブラムシ類	1000~2000					1回	1回
さといも	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	収穫21日 前まで		1回	1回
	ハスモンヨトウ	1000					2回 以内	2回以内
豆類 (種実、ただし、 らっかせい、だい ず、あずき、いん げんまめ、えんどう まめを除く)	アブラムシ類	1000~ 2000		収穫7日 前まで	収穫21日 前まで		2回 以内	2回以内
あずき	アズキノメイガ マメホソクチゾウムシ	1000					1回	1回
いんげんまめ	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	収穫21日 前まで		2回 以内	2回以内
さやいんげん	アブラムシ類	1000~2000					1回	1回
	だいず	アブラムシ類		1000~2000	収穫7日 前まで		収穫21日 前まで	2回 以内
シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ、カメムシ類 ツメクサガ、ハスモンヨトウ		1500~2000 1000		2回 以内				2回以内
えんどうまめ	アブラムシ類	1000~2000		収穫28日 前まで	収穫7日 前まで		2回 以内	2回以内
	エンドウハモグリバエ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1000~1500 1000					1回	1回
さやえんどう	アブラムシ類	1000~2000		収穫7日 前まで	収穫28日 前まで		2回 以内	2回以内
	エンドウハモグリバエ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ	1000~1500 1000					1回	1回
未成熟そらまめ	アブラムシ類	1000~ 2000		収穫7日 前まで	2回 以内		2回以内	
とうもろこし わけぎ	アワノメイガ	1000	収穫14日 前まで	4回 以内	4回以内			
	アザミウマ類		収穫3日 前まで	2回 以内	2回以内			
アスパラガス	ジュウシホシクピナガハムシ	1000	収穫7日 前まで	3回 以内	3回以内			
食用ゆり	アブラムシ類		2回 以内	2回以内				
茶	クワシロカイガラムシ	1000~1500	1000 ㍈/10a	最終摘採 後から 冬期まで	2回 以内	2回以内		
	チャドクガ						200~400 ㍈/10a	
	コカクモンハマキ						1000~1500	
きく	キクヒメヒゲナガアブラムシ	1000~ 2000	100~300 ㍈/10a	—	—	—		

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	PAPを含む 農薬の 総使用回数
桑	クワノメイガ、ハゴロモ類	1000~1500	120 ㍓/10a	摘採15日 前まで	4回 以内	散布	4回以内
	ヒシモンヨコバイ	1500~2000					
	クワシロカイガラムシ	1000					
	ヒメコシンクイ	1200					
	クワヒメゾウムシ、カミキリムシ類	200~300		萌芽前まで			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしないこと。
- ぶどうには薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- 蚕に対して影響があるので、本剤を桑に散布した場合は15日以上経過してから蚕に給与すること。
- 桑のカミキリムシ、クワヒメゾウムシの防除に200~300倍液を散布する場合は、蚕に影響があるので越冬期及び夏切り直後、春切り直後など桑の萌芽前に使用すること。
- ハスモンヨトウの防除に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に散布すること。
- 果樹のカメムシ類に対しては、発生に応じて所定範囲内でくり返し散布すること。
- 本剤は自動車に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては、動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用はさけること。
水産動植物（甲殻類、ボラ、マス）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第4類第2石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。